



環先生から学んだこと

前月号で、第1回講師招聘研修会について紹介しました。今回は、この研修会で子ども達と先生達が何を学んだかを紹介しましょう。

（1）4年生表現活動の指導で

「私は、川嶋先生から自信をもらいました。私は、最初やりたいという気持ちはあったけど、きんちょうしてあんまり発表ができませんでした。だけど、川嶋先生と楽しみながらやると自信がついてきて発表がとても楽しくなるようになりました。ありがとうございました。」（4年女子）

川嶋先生と楽しみながら授業ができたので、自信がついたという。この学級では、同じように自信がついたという子があと二人いた。授業で、子どもに自信をつけてあげる。授業の持つ意味は大きい。

「子どもの四季の歌ふたつ教えてくれてありがとうございます。つぎは、夏、秋、冬の歌も、できればおしえてください。一つ目の歌は、良かったです。二つ目の歌のわらべ歌は、とってもおもしろかったです。だから、二つとも家がかぞくみんなにおしえて、次にみんなといっしょにうたうと、とってもおもしろかったです。次は、夏、秋、冬のうたもまなんで、うちでまた、うたいたいです。川しま先生、うたおしえていただきありがとうございました。夏の歌も秋の歌も冬の歌もおしえてください。」（4年女子）

『子どもの四季』の春の詩を習って、次に続く夏、秋、冬を習いたいと言っている。習った歌を家族に教えて、家族と一緒に歌ったという。よっぽど楽しい授業だったのだろう。家族の

方々も楽しい時間を過ごしたことと思う。

「私は、環先生と一緒に『子どもの四季』を朗読する前は、詩とかきょうみがなかったけど、詩っておもしろいな～と思いました。だから、いろんな詩をたくさん読みたいです。詩をみんなで読むのもたのしいし、一人で読むのも楽しいです。ありがとうございました。また、環先生と、詩を読みたいです。」（4年女子）

45分の授業で、興味のなかった「詩」がおもしろくなり、いろんな詩を読みたいと言いつけている。一人の朗読もみんなで朗読することも楽しいと言っている。たとえ45分の授業といえども、教師に力があると子どもを変えることができることを証明している。

次の感想にも、子どもの変化が見られる。

「声が出せるようになった。子どもの四季のおどりがわかった。のこりの夏、秋、冬の歌を歌い、おどりたい。もっと大きな声で歌いたいです。たまき先生から学んだことはきおくにのこしておきたいです。」（4年男子）

「ぼくは、川嶋先生から楽しみをもらいました。なんでもかかって言ったら、かなしいときに歌を歌うと楽しくなったり、うれしくなったりしたから、子どもの四季って楽しくなったり、うれしくなるとても楽しかったです。この楽しいきもちを、また7月で、また歌いたいです。」（4年男子）

悲しい気持ちだったこの子は、授業で楽しみをもらったと言う。教材の持つ力と、川嶋先生の授業の力のなせる技であろう。授業が子どもの居場所にもなっている。素晴らしいことだと思う。

「環先生から『子どもの四季』の朗読を教わっていると、学んでいることがとても多く感じました。環先生は、みんなのことを、とてもほめてくれて、朗読しているときにリラックスでき、大きな声が出せました。5年生がきれいな歩き方を教わっているのを見ると、『きれいに歩いてみたい』と思いました。今度また来てください。」(4年女子)

ここでは、5年生の授業を見学していた4年生が、学んでいる姿が見える。学年間の学び合いが出てくることも素晴らしいことだ。

「たった45分というみじかい時間だったけど、あそこまでかわる・かわれる、ということにとってもびっくりしました。『かたくりの花』の音読もがんばります。」(5年女子)

「最初は、歩き方が変わるのかなと、ぎもんに思ったけど、実際にやってみると、本当に変わりました。わざわざ、東京からやって来ていただき、授業を教えてくれてありがとうございました。」(5年女子)

45分の授業で、何となく歩いていた歩き方が、劇的に変化し美しく歩けるようになったとの感想。川嶋先生が、以前おっしゃっていた。

「人間だけが2足歩行で美しく歩けるのです。今日は、子ども達の美しさを引き出した1日になった。」

(2) 4年生の詩の授業で

「川嶋環先生、4年1組に来てくれてありがとうございます。川嶋先生のおかげで、詩の楽しさやむずかしさがよくわかりました。それにわらべ歌や他の歌などおしえてくれてありがとうございます。環先生が東京に帰ってしまってほんとうにさびしいです。東京からもどってきたらまた詩をおしえてください。」(4年男子)

4年1組で川嶋先生が詩教材「雲」(山村暮鳥)をつかって授業をしてくださった。上記はそのときの感想。「詩の楽しさや難しさ」がわかったといっている。凄い4年生ではありませんか。

「・・・雲の詩の時は、みんなで読んだり分からない所を国語辞典で調べたりして、とてもおもしろかったです。・・・なぜ磐城平なのかも想

像してとても楽しかったです。この詩を読むことで、歌の時は大きく息を吸って声を出すことを学びました。ありがとうございました。」(4年女子)

辞書を使って言葉調べ(基礎基本の習得)をしたり、なぜ磐城平なのか追求する(考える力を育てる)このような授業がおもしろいといっている。

(3) 最後に先生達の感想

「川嶋先生の一つ一つの動作や言葉に子ども達が反応し、生き生きと学んでいる姿が印象的でした。作者になりきって読ませたり、想像した答えを前に来て耳打ちさせたり、連続授業、しかも6時間目とはまるで思えない、子ども達の集中力を引き出す魔法の技が満載で、見ている私もとても楽しく勉強させて頂きました。・・・介入授業について。私はこれまで、介入授業に対してあまり良い印象を持っていませんでした。でも今回の研修で、その印象が変わりました。川嶋先生の介入授業は、誰も傷つけることなく、でも甘やかすわけでもなく、教師・児童ともに学び合う授業だと感じました。・・・機会を頂けるのであれば、ぜひ介入授業を通して勉強させていただきたいです。」(2年担任)

「・・・『授業の原則』 音読(素読) わからない言葉を出し合い意味を明らかにする(国語辞典を活用しながら) 疑問を出し合って深め、広める(授業の結晶) 場を想像しながらの朗読 は、まさにどの教材でも使える原点だなと思いました。」(6年担任)

「1年生のウォーキング指導では、話の聞き方、歩く姿勢、集団の動かし方等、指導が的確であった。特に、集団で動くことが苦手な1年生を短的確な言葉で誘導していたのには驚いた。4年生の『詩の朗読指導』では、詩の朗読をなぜ体育館でやるのか疑問に思ったが、詩をリズムに合わせて歌にし、歩きながら表現しているのを見て、なるほど!と納得した。」(1年担任)

先生達も多くを学べた研修会でした。次回の講師招聘研修会(第2回)は、7月9、10日。子ども達と川嶋先生の再会が楽しみだ。